

【構造図版 adpack-NEO i】の特長（adpack-NEO i をより便利にお使い頂く為に）

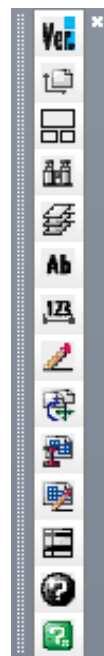
※NEO i 2018 Ver. 4.0 を一例としています。

◆ adpack-NEO i のコマンドの実行方法

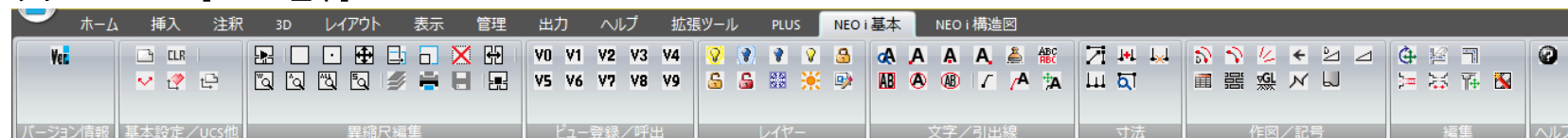
adpack-NEO i コマンドは、画面右側のメインツールバーから各ツールバーを表示して選択するか、リボンメニュー [NEO i 基本] [NEO i 構造図] から選択します。コマンド名を直接キーボードから入力して実行することも可能です。

尚、IJCAD にあるコマンド（例えば線分・円等を描く作図コマンドや移動・コピー等の編集コマンド）は NEO i のコマンドには加えていないので、基本的な操作は IJCAD コマンドを使用してください。

メインツールバー



リボンメニュー [NEO i 基本]



リボンメニュー [NEO i 構造図]



◆ オブジェクト図形（部材オブジェクト）

《伏図／軸組図》メニューの＜RC 角柱＞＜RC 梁＞＜壁作図＞＜開口（伏図用）＞等のコマンドで部材を配置すると、adpack-NEO i 独自のオブジェクト図形（部材オブジェクト）で作図されます。

例えば、＜RC 梁＞コマンドで作図した大梁は、梁部材・梁符号・寸法線等が一つのオブジェクト図形になります。

その為、配置した後に《構造図一般》メニューの＜オブジェクト編集＞**ED** コマンドを使用して、梁幅や梁符号・寸法作図の ON/OFF 等の変更を簡単に行うことができます。

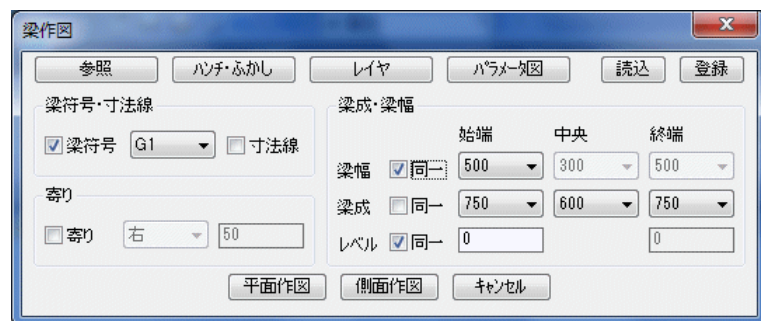
また、キーボードから [Ctrl+Shift+A] として、グループ ON/OFF を切り替えることで、オブジェクト図形を線分単位として扱うことができ、自由な編集が可能になります。

尚、構造図版 adpack-NEO i では、部材オブジェクト配置の各コマンドのダイアログボックスの初期値は、寸法が OFF（チェック無し）になっています。

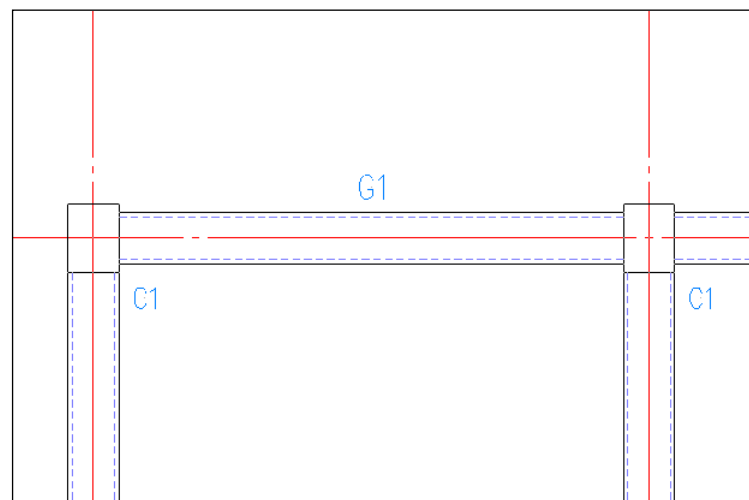
《伏図／軸組図》ツールバー



＜RC 梁＞コマンドのダイアログボックス



＜RC 梁＞コマンドで [大梁 G1] を作図



◆ レイヤ設定

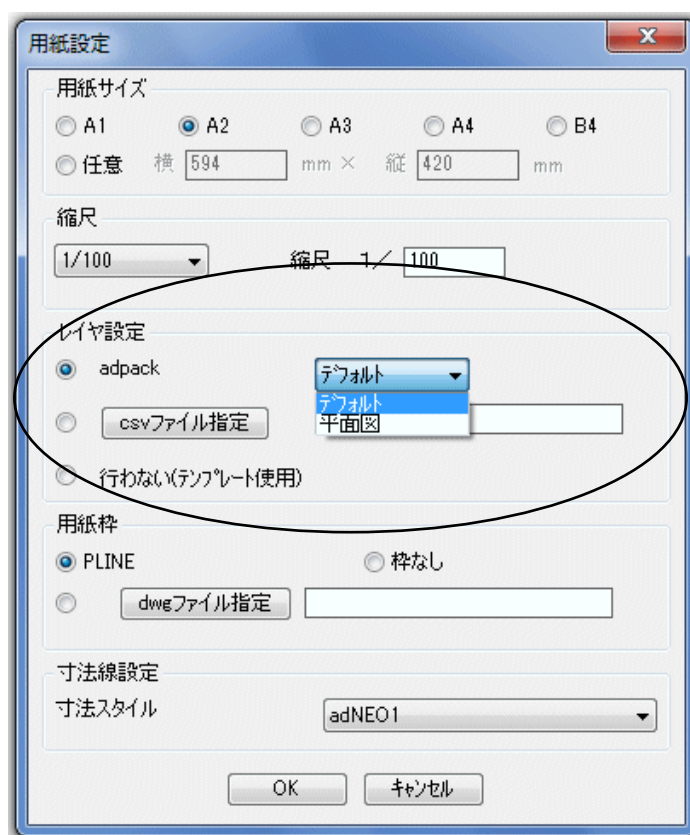
《基本設定／UCS 他》メニューの＜用紙設定／設定変更＞コマンドで、現在の図面にレイヤを設定することができます。
用紙設定ダイアログボックスの［レイヤ設定］の項目で、予め用意されているレイヤセットを選択したり、[csv ファイル指定] ボタンから事前に作成してあるレイヤ設定の csv ファイルを選択して、これから作図する図面に任意のレイヤを設定します。

レイヤセットは［デフォルト］と［平面図］を用意していますが、この csv ファイルを元に、独自のレイヤセットを複数作成してリストに追加することも可能です。

＜基本設定／UCS 他＞ツールバー



＜用紙設定／設定変更＞コマンドのダイアログボックス



例えば、＜杭＞コマンドで作図レイヤの初期値に設定されている「KUI」というレイヤは〔平面図〕のレイヤセットには含まれていませんが、コマンドを実行して杭を作図するとその図面に「KUI」レイヤが追加されます。

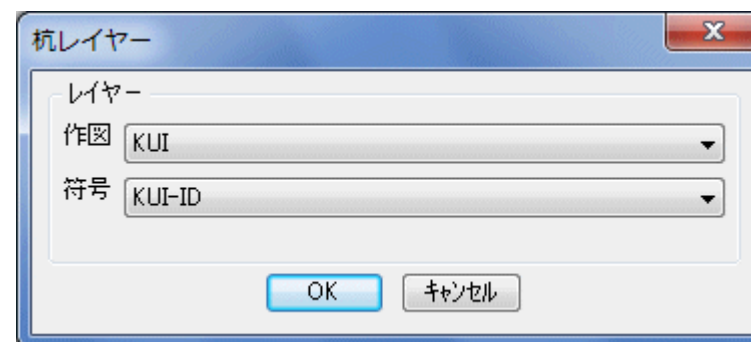
このように adpack-NEO i では各コマンドの作図レイヤの初期値に設定されているレイヤは、図面に存在しなくてもコマンド実行時に追加される仕様となっています。

その為、adpack-NEO i シリーズ以外の CAD ソフトで作成した図面でも、adpack-NEO i を起動して開くだけで、必要なレイヤはコマンド実行時に追加されます。

＜杭＞コマンドのダイアログボックス



〔杭レイヤ〕ダイアログボックス



💡 ヒント：

csv ファイルとは、データをカンマで区切って並べた Excel などの表計算ソフト等で保存できるファイル形式です。

テキストファイルの為メモ帳や Word で開いて直接編集することもできるので、Excel がインストールされていないパソコンでも編集が可能です。

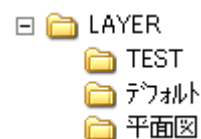
【レイヤセットの csv ファイルについて】

保管場所：（ 1 箇所）

ドライブ名：¥ProgramData¥archdata¥adpack-NE0i 構造図_V4¥LAYER フォルダ内

既存のレイヤセットを利用した新規レイヤセットの作成とリストへの追加の手順： ※adpack-NE0 i を終了した状態で操作してください。

- 1)
「デフォルト」「平面図」フォルダのように、レイヤセットに追加したい名称のフォルダ（仮称：TEST）を同じ場所に新規作成して、ここでは「デフォルト」フォルダ内の「LAYER-SET.csv」ファイルを「TEST」フォルダにコピーする。



- 2)
「TEST」フォルダの「LAYER-SET.csv」ファイルを Excel 等で開いて、No. 4 以降 A～F の範囲を任意に編集して上書き保存する。（No. 1～3 は変更不可）

	A	B	C	D	E	F
1	レイヤー設定					
2	名前	表示	色番号	線種	線種ファイル	太さ
3	Defpoints	on	254	Continuous		0
4	HARI	on	7	Continuous		0
5	HARI-ID	on	150	Continuous		0
6	HARI1	on	171	JIS_02_0.7	acadiso	0
7	HASHIRA	on	7	Continuous		0.3
8	HASHIRA-ID	on	150	Continuous		0
9	HASHIRA1	on	5	JIS_02_0.7	acadiso	0

3)

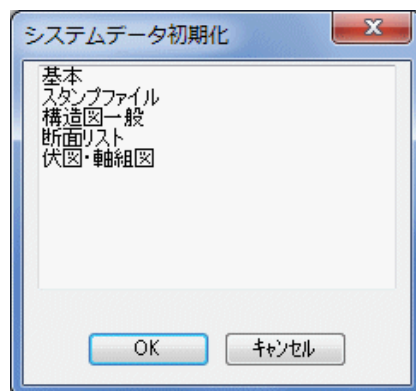
「LAYER」フォルダ内の「LayerGroup-Name-List.csv」ファイルをExcel等で開いて、新規に作成した「TEST」フォルダを追加して上書き保存する。
この操作で、用紙設定ダイアログボックスの「レイヤ設定」の項目に、レイヤセット「デフォルト」「平面図」に「TEST」が追加され、選択が可能となる。



◇ 1

手順「2)」で、「LAYER-SET.csv」ファイルの中で独自のレイヤー名を設定しても問題ありませんが、作図レイヤーの初期値はユーザー様の方では一括変更できないので、＜RC 角柱＞＜RC 梁＞＜壁作図＞＜コマンド等のダイアログボックス内で、それぞれの作図レイヤーを任意のものに変更する作業が必要となります。adpack-NEO i を終了して次回起動した際にも、変更した作図レイヤー設定は残っています。

但し、《基本設定／UCS 他》メニューの＜システムデータ初期化＞**CLR** コマンドを実行して該当する項目（例：伏図・軸組図）を選択して実行すると、ダイアログボックス内の設定がインストール直後の状態になるので、作図レイヤー設定も同時に初期化されます。



注意！

上記の操作はカスタマイズの範疇になりますので、adpack のサポート対象外となります。

恐れ入りますが、ユーザー様の責任で操作をしていただくようにお願いします。

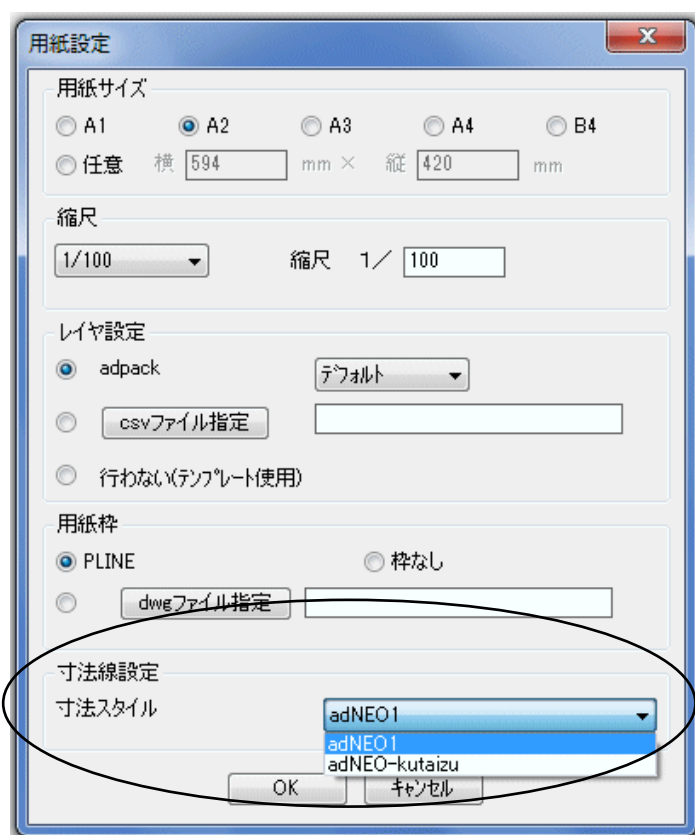
操作を間違えてファイルを消してしまったような場合、再インストールが必要になる可能性もありますので、十分にご注意ください。

◆ 寸法スタイル設定

用紙設定ダイアログボックスの「寸法線設定」の項目で、予め用意されている寸法スタイルを選択して、これから作図する寸法の寸法スタイルを設定します。

寸法スタイルは [adNE01] (1/100 程度用) と [adNE0-kutaizu] (1/50 程度用) を用意していますが、この csv ファイルを元にして、独自の寸法スタイルを複数作成し、リストに追加することも可能です。

＜用紙設定／設定変更＞コマンドのダイアログボックス



【寸法スタイルの csv ファイルについて】

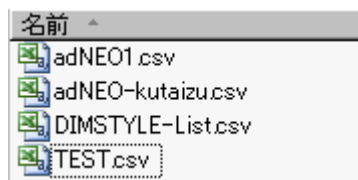
保管場所：（2箇所） ※同じ csv ファイルが2箇所に存在。

- ① ドライブ名：¥ProgramData¥archdata¥adpack-NE0i 構造図_V4¥USERDATA¥DIMSTYLE フォルダ内
- ② ドライブ名：¥Users¥ユーザ名¥AppData¥Roaming¥archdata¥adpack-NE0i 構造図_V4¥DIMSTYLE フォルダ内

既存の寸法スタイルを利用した新規寸法スタイルの作成とリストへの追加の手順： ※adpack-NE0 i を終了した状態で操作してください。

1)

ここでは ① にある「adNE01.csv」ファイルを同じ場所にコピーして、任意のファイル名（仮称：TEST.csv）に変更する。



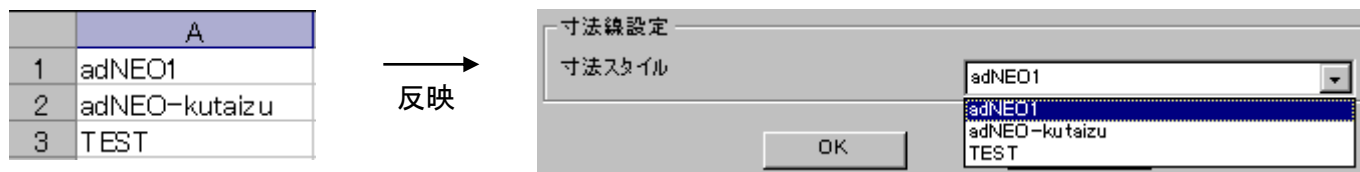
2)

「TEST.csv」ファイルを Excel 等で開いて、No. 5 A～B Rの範囲を任意に編集して上書き保存する。（No. 1～4 は変更不可）

	A	B	C	D	E	F	G
1	1	2	3	4	5	6	7
2	;DIMSEPIはキャラクターコードCHRで入力する。カンマ=(chr 44):ピリオド=(chr 46):スペース=(chr 32)						
3	;角の精度	変換単位の記入	変換単位の精度	変換単位の尺度	変換単位の丸めの値	変換単位寸法許容差の精度	変換単位寸法許容差の0省略表記
4	DIMADEC	DIMALT	DIMALTD	DIMALT F	DIMALT RND	DIMALT TD	DIMALT TZ
5	0	0	2	25	0	2	0

3)

「DIMSTYLE」フォルダの「DIMSTYLE-List.csv」ファイルを Excel 等で開いて、新規に作成した「TEST.csv」のファイル名を追加して上書き保存する。
この操作で、用紙設定ダイアログボックスの「寸法線設定」の項目に、寸法スタイル「adNEO1」「adNEO-kutaizu」に「TEST」が追加されて選択できるようになる。 ※先に「4)」を実行してからリストへの追加を確認。



4)

作成した「TEST.csv」と「DIMSTYLE-List.csv」を②の場所へ上書きコピーする。

② ドライブ名:¥Users¥ユーザ名¥AppData¥Roaming¥archdata¥adpack-NEOi 構造図_V4¥DIMSTYLE フォルダ内

注意！

上記の操作はカスタマイズの範疇になりますので、adpack のサポート対象外となります。

恐れ入りますが、ユーザー様の責任で操作をしていただくようにお願いします。

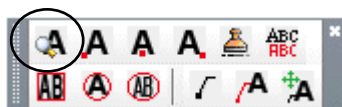
操作を間違えてファイルを消してしまったような場合、再インストールが必要になる可能性もありますので、十分にご注意ください。

◆ 文字スタイル設定

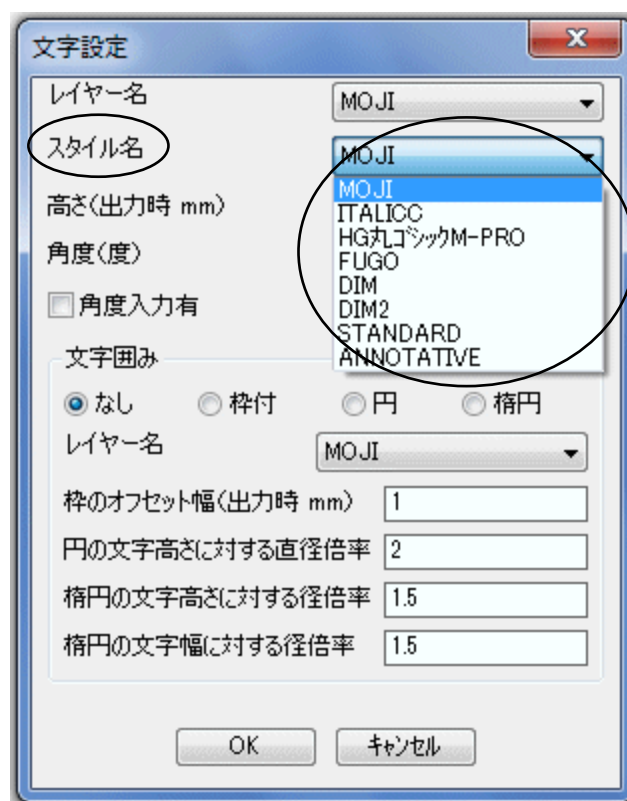
文字設定ダイアログボックスの「スタイル名」の項目で、予め用意されている文字スタイルを選択して、NEO i の文字記入コマンドを使用してこれから作図する文字の文字スタイルを設定します。

文字スタイルは「MOJI」「ITALIC」「HG 丸ゴシック M-PRO」「FUGO」「DIM」「DIM2」を用意していますが、この csv ファイルを元に独自の文字スタイルを複数作成してリストに追加することも可能です。

《文字／引出線》ツールバー



＜文字設定＞コマンドのダイアログボックス



【文字スタイルの csv ファイルについて】

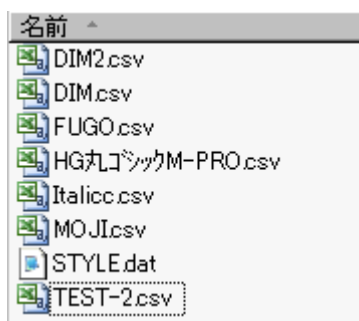
保管場所：（2箇所） ※同じ csv ファイルが2箇所に存在。

- ① ドライブ名:¥ProgramData¥archdata¥adpack-NEO i 構造図_V4¥USERDATA¥MOJISTYLE フォルダ内
- ② ドライブ名:¥Users¥ユーザ名¥AppData¥Roaming¥archdata¥adpack-NEO i 構造図_V4¥MOJISTYLE フォルダ内

既存の文字スタイルを利用した新規文字スタイルの作成とリストへの追加の手順： ※adpack-NEO i を終了した状態で操作してください。

1)

ここでは ① にある「MOJI.csv」ファイルを同じ場所にコピーして、任意のファイル名（仮称：TEST-2.csv）に変更する。



2)

「TEST-2.csv」ファイルを Excel 等で開いて、No. 4 A～Mの範囲を任意に編集して上書き保存する。（No. 1～3 は変更不可）

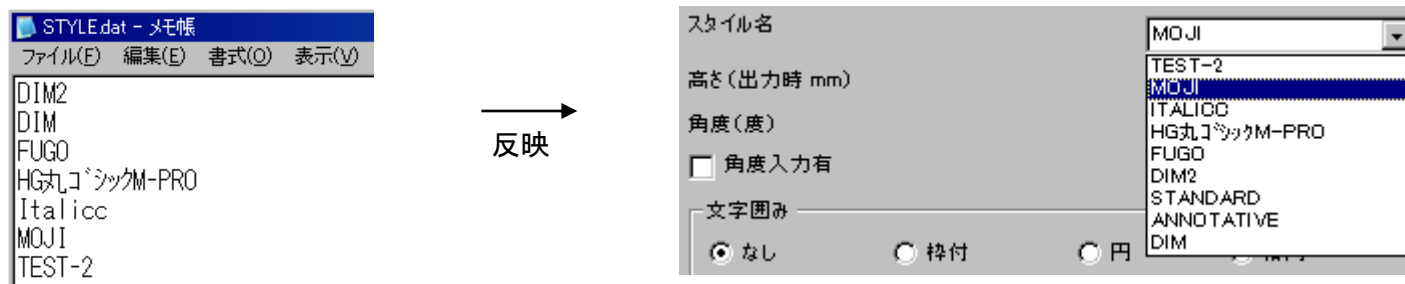
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	文字スタイル												
2	フォント種類 (T=TrueType/nil=SHX)	文字スタイル名	フォント名 1	フォント名 2	異尺度対応(A)	異尺度対応の文字スタイルを作成(Y)	文字の方向をレイトに揃える(Y/N)	文字の高さ	幅係数	傾斜角度	左右反転(Y/N)	上下反転(Y/N)	縦書き(Y/N)
3	フォント種類 (T=TrueType/nil=SHX)	文字スタイル名	フォント名 1	フォント名 2	異尺度対応(A)	異尺度対応の文字スタイルを作成(N)	文字の高さ	幅係数	傾斜角度	左右反転(Y/N)	上下反転(Y/N)	縦書き(Y/N)	
4	nil	TEST-2	SIMPLEX8.shx	EXTFONT.shx	A	Y	N	0	0.8	0	N	N	N

※No. 2 は異縮尺対応文字スタイルを作成する場合の凡例、No. 3 は作成しない場合の凡例。

3)

「MOJISTYLE」フォルダの「STYLE.dat」ファイルをメモ帳等で開いて、新規に作成した「TEST-2.csv」のファイル名を追加して上書き保存する。
この操作で、文字設定ダイアログボックスの「スタイル名」の項目に、文字スタイル「TEST-2」が追加されて選択できるようになる。

※先に「4)」を実行してからリストへの追加を確認。



4)

作成した「TEST-2.csv」と「STYLE.dat」を②の場所へ上書きコピーする。

② ドライブ名:¥Users¥ユーザ名¥AppData¥Roaming¥archdata¥adpack-NEOi 構造図_V4¥MOJISTYLE フォルダ内

注意！

上記の操作はカスタマイズの範疇になりますので、adpack のサポート対象外となります。

恐れ入りますが、ユーザー様の責任で操作をしていただくようにお願いします。

操作を間違えてファイルを消してしまったような場合、再インストールが必要になる可能性もありますので、十分にご注意ください。